

1928(昭和3)年創業のイノウエ(緑区鳥屋)は、ヘアゴムで国内シェア8割以上を占めています。かつて旧津久井地域で盛んだった伝統産業「組みひも」ですが、時代とともに製造業者が減っていきました。そんな中で、同社が生き残り、成長しているのは、どこよりも早く「カラーヘアゴム」を開発、自社製品として展開して脱下請けを図ったことや、ヘアゴムを中心とした美容商材にも販路を拡大したことなどが大きいです。今では世界約10カ国にも輸出し、グローバル市場を席巻しています。今回は同社の井上毅社長を訪問し、今後の経営戦略などを聞きました。

「ヘアゴムのトップシェア企業として知られています。」

「現在、当社では数百種類にわたるヘアゴムを造っています。コンビニヤドラッグストア、量販店など、取引先は計100社あります。当社ブランドで納入しているものと、OEM(相手先ブランド生産)しているものがありますが、これらを合わせる国内シェアは8割以上です。ここ(本社工場)では月に約300万本の生産をしています」

「カラーヘアゴムの生みの親でもあります。」

「かつての津久井は『製紐』が盛んで、組合員は30社ほどいました。しかし、どこもOEM生産を手掛けており、小売業と直接取引はしていませんでした。父である先代(現会長の井上旭さん)がちょうど、当社に入社した頃、地域の同業他社との交わりを深めるにつれ、『皆と同じ製品を造って、同じルートで売って

要望でした。小売店にとってはヘアゴムだけなく、さまざまなアイテムを当社から一括して仕入れた方が、発注も効率的です」

「ヘアゴムの品質も重視しています。」

「工場では、素材をゴムひも状に加工するまで手掛けています。最終的に商品として仕上げるのは、やはり人の手です。当社の場合、それを担当しているのは約300人いる内職者の人たちです。工場ではゴムひもを渡し、各家庭に持ち帰ってもらいます。そこで手作業によって輪に接着し、検品、包装して、納品します。当社のヘアゴムは品質が良く、7割までの重さに耐えられます」

「海外展開にも注力しています。」

「北米や豪州、中国、ベトナムなどで使われています。現地には安価な類似品も出回っていますが、品質

相模原産ヘアゴム 国内シェア8割

伝統継承で世界市場にも羽ばたく

イノウエ 代表取締役社長

井上 毅さん

面では当社製の方が上です。ヘアゴムは簡単に模倣できると思われがちですが、実は外部素材は化学繊維、内側(芯)には天然ゴムが使われています。2種類の異なる素材を接合するには、形状もノウハウが必要です。また、天然ゴムは環境に左右されやすいため、適切な工場管理も求められます。たとえ海外市場であつても、今は価格競争にはなりません。生活水準が上がっている国が増えており、消費者は価格よりも品質を選ぶ傾向にあるからです。すでに国内シェアは8割以上あるため、今後は海外事業を伸ばしていきたいと考えています」

